



中部電力ミライズ

# 「令和4年度再生可能エネルギーアグリゲーション実証事業」 および「BRP社」の概要

2022年6月2日

中部電力ミライズ株式会社

## プロジェクト名称

地域経済循環型再エネアグリゲーション実証事業

### ■ 概要

「再エネの地産地消」と「調整力の最適運用」による『地域経済循環型の脱炭素モデル』の実現を目指し、多種多様な調整力を活用して、インバランス※1を最小化するBG※2運用モデルを構築します。

※1 インバランス：電力の需要量（使われる分）と供給量（発電される分）の差分のこと  
※2 BG（バランシンググループ）：インバランスを算定する対象となる単位

### ■ 特徴

項目	内容
① 調整力のマルチユース	インバランスの解消や需給調整の調整力として、蓄電池などのリソースを複数の用途に利用（マルチユース）することで、脱炭素ならびに経済性に資する最適な運用を検証する。
② 産官学連携	自治体や大学、地場企業と連携し、当該地域において、再エネと蓄電池などのリソースの双方が普及するサイクルの確立を目指す。

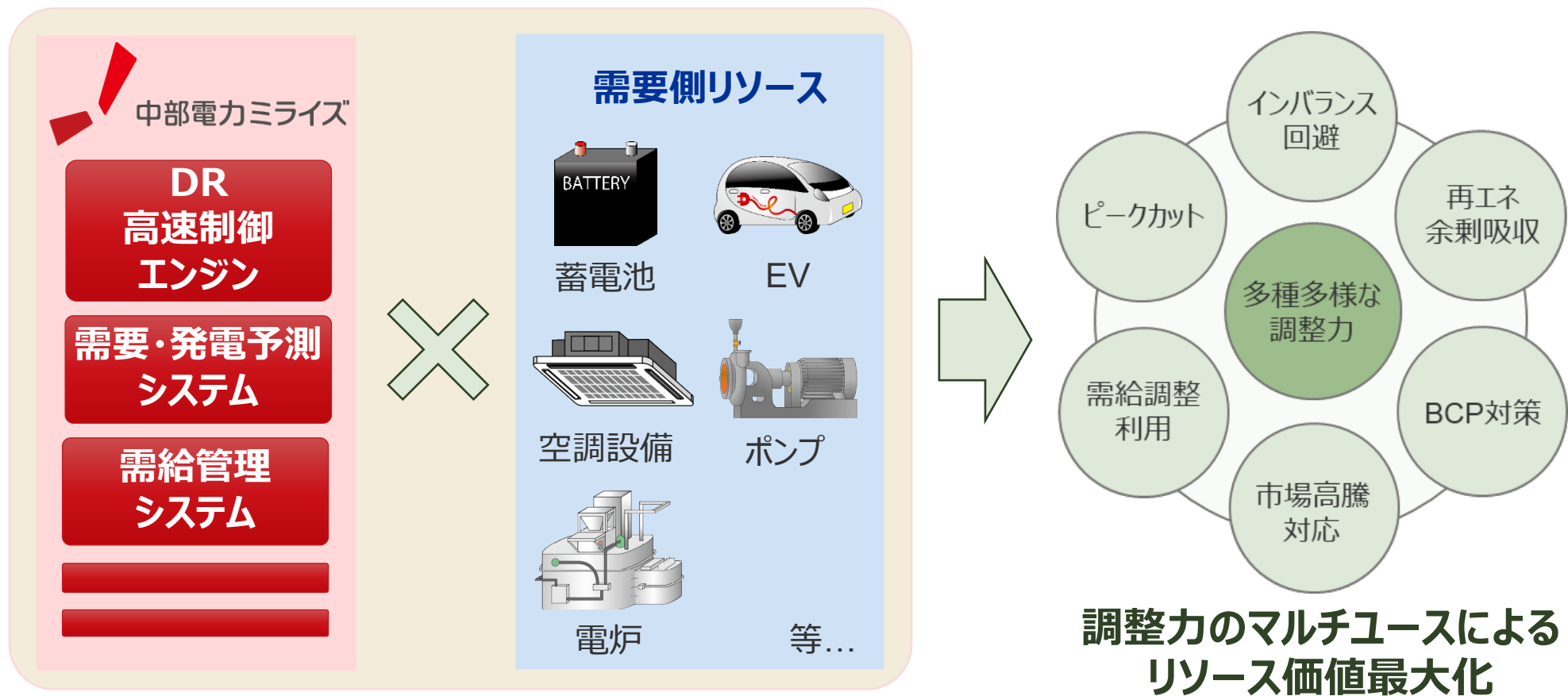
### ■ 期間

#### 2022年6月～2023年3月（予定）

- ・ 2022年 6月～2022年 9月：実証準備（実証内容の詳細検討・システムの仕様検討）
- ・ 2022年10月～2023年 1月：実証試験
- ・ 2023年 2月～2023年 3月：実証結果分析

# 1 - 2 実証事業の特徴①「調整力のマルチユース」

- ✓ 当社が開発したDR高速制御エンジン※を活用し、蓄電池を始めとする多種多様な需要側リソースを制御することで創出した「調整力」のマルチユースを検証します。
- ✓ 各リソース特性を考慮した制御により、経済性の観点でリソース価値最大化を実現します。



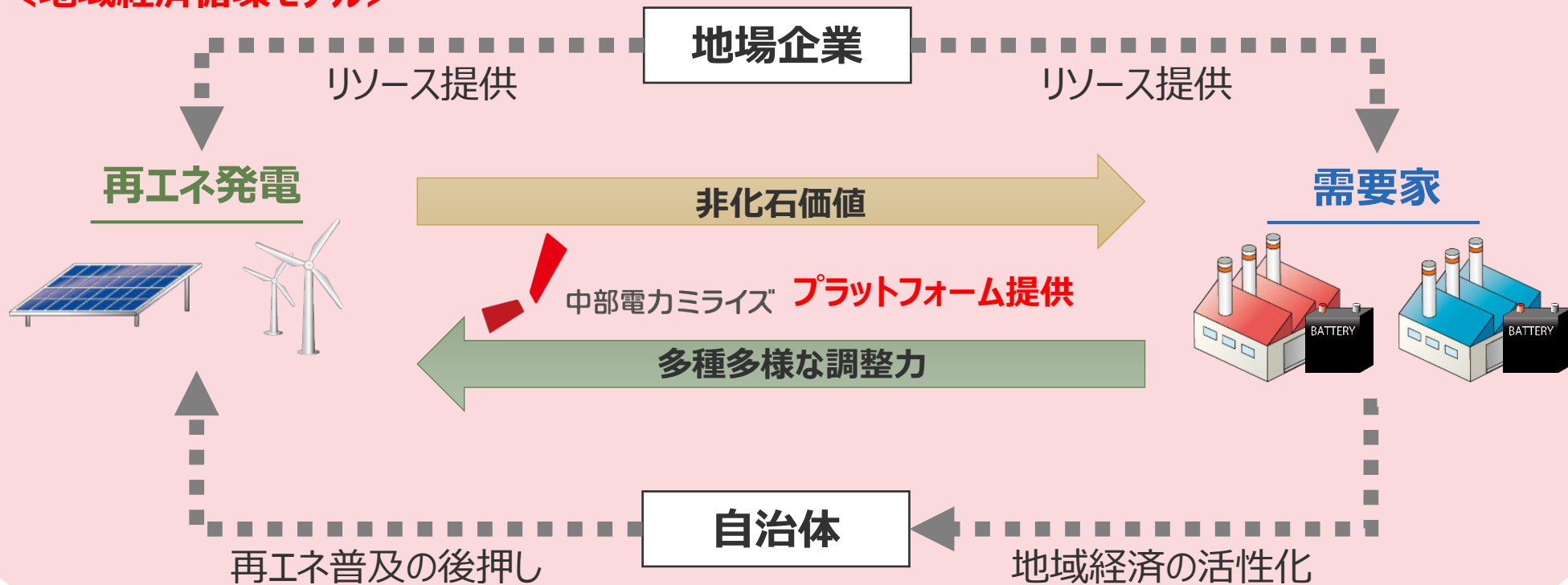
※当社が需給調整市場への調整力の供出を目的に開発した、需要側リソースを高い精度で高速制御する技術

# 1 - 3 実証事業の特徴②「産官学連携」

- ✓ 産官学連携により、「調整力のマルチユース」と「再エネの地産地消」による持続可能な「地域経済循環型の脱炭素モデル」を検証します。

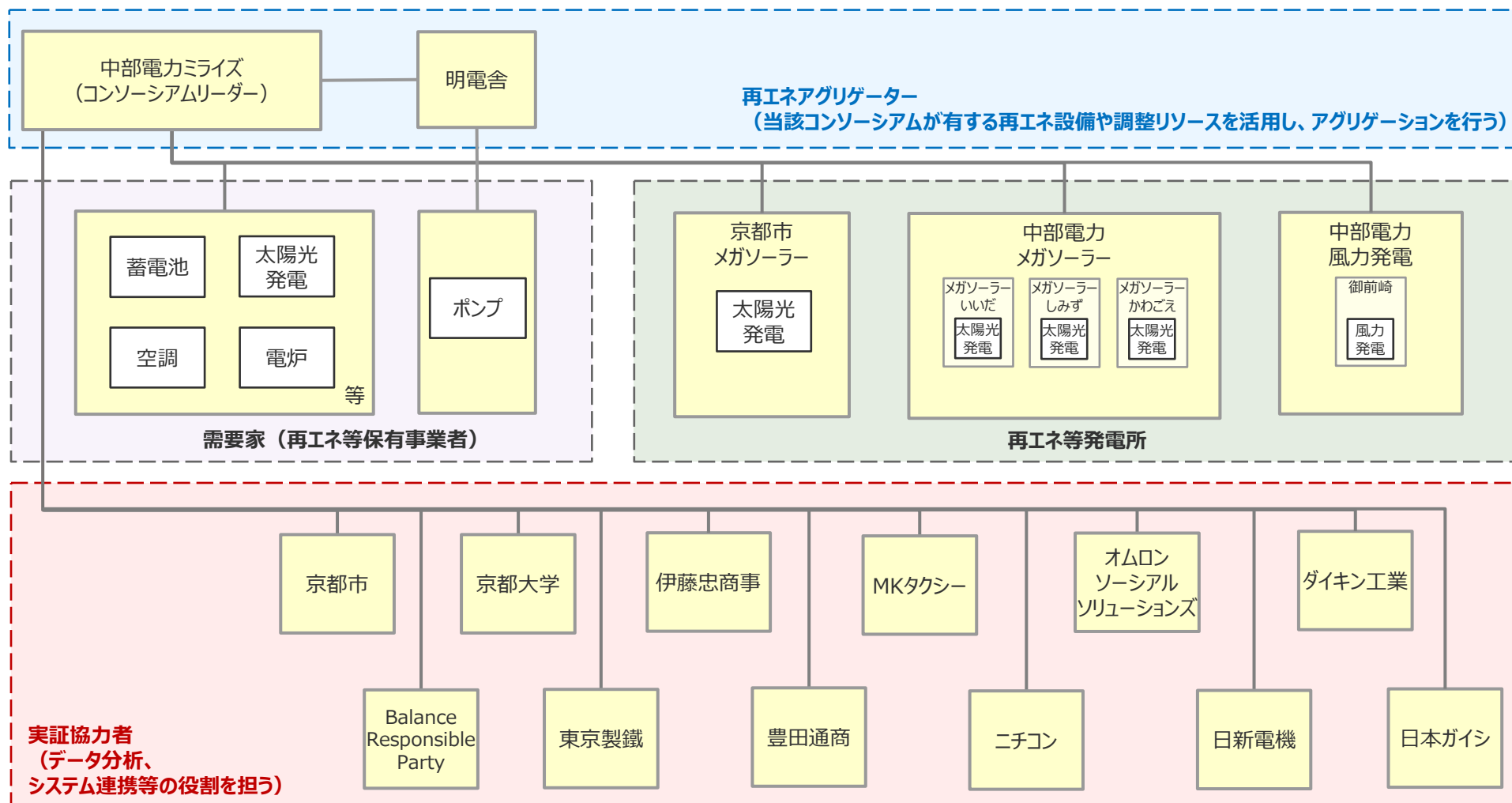
産	官	学
プラットフォーム・リソース提供	地域経済循環モデルの推進	学術的研究・分析

## <地域経済循環モデル>




# 1-4 実証イメージ（コンソーシアム体制）

- ✓ 中部電力ミライズがコンソーシアムリーダーをつとめ、京都市、大学、複数の企業・需要家と連携し、コンソーシアム全体で再エネルギー50MW、調整力200MWを運用し、実証を行います。



## 2 BRP社の概要

カーボンニュートラルの実現に向け、天候に大きく左右される「太陽光」や「風力」といった再生可能エネルギー発電の導入拡大が見込まれる中、電気の「需要」と「供給」のバランスをとる調整役として期待されている「蓄電池」の導入を支援する新会社を設立しました。

<b>会社名</b>	バランス レスポンシブル パーティー <b>株式会社 Balance Responsible Party</b>	【ロゴマーク】  Balance Responsible Party
<b>所在地</b>	京都市下京区中堂寺粟田町93番地 KRP4号館3階 KRP・BIZ・NEXT	
<b>設立</b>	2022年6月1日	
<b>代表者</b>	代表取締役社長 西畑 尚	
<b>資本金</b>	990万円	
<b>事業内容</b>	エネルギー利用や蓄電池等に関する分析、調査およびコンサルティング事業 <具体的な取り組み> ・お客さまの実情に合わせた蓄電池導入のメリット分析、最適なりソース選定および運用方法の提案 ・再エネアグリゲーション実証事業等に係る分析・調査	

「その手があったか、脱炭素。」



中部電力ミライズ

